番号	項　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅰ　理念に基づく運営 1．理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のんびり　ゆったり　そのひとらしく」というわかりやすい文言の理念のもと、常に利用者のペースで生活できる介護を心がけている。	○	地域密着型サービスを意識した理念を、より具体的にしていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中で、理念を思い起こしながら、ケアにあたっている。話しかけ方、接し方が、のんびり、ゆったりした雰囲気を作るように工夫している。「音・光・におい・温湿度・職員」すべてが、利用者にとっての環境であることを各自が認識し、食器や器材の音などにも、気を配っている	○	自立支援の理念のもと、さらに、ご本人ができることは積極的にしていただくように、働きかける努力をしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年4回発行の「より道通信」、地域に向けての広報誌「より道だより」に理念を毎回掲載している。	○	地域のかたにも、そろそろ次の発行では？ときかれることがあり、浸透してきているようである。
	2．地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	介護相談窓口であることを、地域の回覧板や協力病院を利用し広報している。	○	地域の方から、電話や訪問で介護相談がある。なお、対応困難な場合は、地域包括支援センターにつなぐようにしている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、活動に参加している。	○	利用者も児童を見守る活動に散歩時参加している。校区祭りのバザーに出店し、利用者のかたに、蒸しパンづくりと販売を担当していただいた。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括支援センターと連携をとって、介護で困っているかたの相談窓口として、地域に貢献する体勢をとっている。自治会の集まりで伝えたり、広報誌に載せたりしている。	○	緊急時の対応に、お互い協力し助け合う約束をしている。

番号	項　　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	3．理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果を踏まえての改善計画に基づき、一つ一つの課題に積極的に取り組んできた。	○	改善計画を、グループホーム運営の具体的目標として利用している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス評価についての報告をし、それに対して参加者、それぞれの立場からの意見をきき、参考にしている。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センターの職員と、行き来する機会を持ち、ケアの向上を目指している。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度について学んでいる。必要時には、シニアライフアドバイザーの方に相談できる態勢にしている。	○	
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関適法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のマニュアルを作成し、意識の向上につとめている。	○	虐待防止委員会を定期的に、開催している。
	4．理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には時間をかけて、利用者のはなしをきき、家族の意見に耳をかたむけ、十分な説明をし、理解・納得していただいている。	○	

番号	項　　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	適宜、利用者のご様子を報告し、意見・疑問・要望・苦情がないか確認している。また、苦情相談窓口や第三者委員のことも説明している。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、メール、電話を利用して、暮らしぶり、健康状態、金銭管理について、担当者や責任者からこまめに報告をしている。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明時、電話等にて、意見、不満、苦情がないかをたずねている。また、家族会の開催や運営推進会議で、発言してもらっている。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、物品購入、日々の業務の中でも、職員の意見をきき、検討しチームケアをしている。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日常の業務を行う職員とは別に、管理者および看護師がすべてに柔軟な対応ができるように勤務の調整をしている。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の生活面への相談にも応じ、働きやすい環境を整えている。新しい職員の教育は、チームケアを徹底し、ケアの内容にばらつきがないようにしている。	○	
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの能力や興味に応じたトレーニングを試みており、参加した研修の発表をしてもらう、ひとつのテーマにそって研究することなどをすすめている。研修報告書を新たに作成し、学んだことを現場に生かし、振り返るシステムを作っている。	○	担当者の職場内研修に皆で、取り組んでいる。

番号	項　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会主催の研修会に参加している。	○	他事業所での長期間実習に看護職が参加し、相互研鑽を図った。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	余裕を持った人員配置をしているため、体調不良や冠婚葬祭など、休みの希望に対応している。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員が学びたいテーマを踏まえながら、研修への参加をすすめ、学んだことを職場で活かし、定期的に振り返るよう指導している。	○	
	Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面接で出来るだけ把握するようにつとめ、気軽に相談できる雰囲気をつくっている	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話や面接で、家族の悩みや希望にじっくり耳を傾け、本人や家族の状況の把握、気持ちをくみとることができていると思う。	○	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを把握し、必要な場合は、行政や他事業所に相談する道筋をつくる支援をしている。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は、夜間でも家族との連絡がとりやすいようにしている。	○	

番号	項　　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、喜びや感動をもらっていると感じる。生きることについて、学ぶことが多い。相互のちからで、当グループホームがあることを痛感する日々である。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に、具体的に支援する役割を説明し、協力していただいている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	主介護者のみではなく、家族すべてとの関係を把握し、良好な関係が保てるように努力している。また、家族間の意思の疎通をお願いしている。	○	私たちが間に入ることによって、家族間の連携がうまくいっていると思う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人が訪ねてくれるような雰囲気の配慮をしている。日頃から、ご本人が行きたい場所にお連れするようにしている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みなさん、それぞれに仲のよい利用者がいらっしゃる。人間関係の些細ないさかいはあるが、大きな問題になることのないように支援している。	○	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した家族と交流がある。	○	

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を中心に、認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を使うなどして、本人の希望や意向をくむ努力をしている。ご家族からの情報も、もらっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新たに「聞き書き」の手法に取り組んで、ご本人をより知ることに努めている。	○	ICレコーダー等を使用し、利用者の自分史の製本をしたいと考えている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の一日の過ごし方のみならず、食事量の測定、日々の水分量のチェック、疾患の状態、健康状態の把握に努めている。	○	管理栄養士や歯科医等の専門職に、意見をもらっている。
	2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と話し合う以外にも、医師・歯科医師・皮膚科医と話し合う機会をもっている。	○	医師同士が直接話し合う機会をもっていただいている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員間では、期間に関係なく、日常的に会議をもっている。本人・家族とは機会あるごとに話し合い、計画を見直している。また、必要時には主治医にも相談している。	○	主治医と家族が直接話し合いをしていただいている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は、個別記録にわかりやすく記載されている。	○	個別記録をもとにケアカンファレンスを頻回に開催し、介護計画に反映している。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	3．多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医師の判断によって、必要な治療をグループホーム内で行うことがある。	○	看護師・准看護師が2名で対応しているが勤務のローテーションもあるので訪問看護ステーション等と連携を取っていきたい。
	4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日頃から、民生委員、警察、消防に協力してもらっている。	○	自衛消防隊に入隊している。中学校のボランティア部の受け入れをしている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターと連携をとり、必要時には他のサービスを利用できるように対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員の方に、運営推進会議に3年近く参加していただき馴染みになり、協働体制が強化されてきた。	○	夏祭り等、ホームの行事にも参加していただいている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望でかかりつけ医を決めている。かかりつけ医と事業所が良好な関係を築いており、適切な医療を受けている。ご様子に応じて、かかりつけ医以外も受診することも必要と考えており、実施している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師に、対応の仕方や薬の効能、疾患について相談し助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所に勤務する看護師が、医師と連携をとりながら、利用者の日常の健康管理や医療面の支援を行っている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際には、必要な情報をいち早く提供している。退院後の生活での注意点等を家族と病院関係者と相談している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会において、終末期をテーマに話し合いをもった。個別にも、家族・かかりつけ医とともに、終末期のありかたについて検討を重ねている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度のかたに対して、グループホームにて出来ることを検討し、かかりつけ医の指導の下、実践している。今後の変化についても、かかりつけ医と相談してすすめていく態勢である。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、時間をかける、家族の協力を得る、スタッフの一時的な増員をはかるなど、きめ細かい対応をし、本人のダメージを最小限にするよう努力している。		
	Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）　一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	見守りをしながらの話し合いなので、内容が利用者の耳に入ってしまわないように留意している。不要な記録はシュレッダーにかけている。	○	言葉の大切さをスタッフ全員が認識し、日々心がけてさらにレベルアップしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	『～はいかがですか？』『～はどうでしょう？』などの言葉がけをして、本人の思いや希望を言葉や、ご様子からキャッチして、さらに、本人に決めていただいている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりおひとりのペースをスタッフ全員が把握できており、個別希望に対応している。	○	日頃の生活のペースのみならず、突然の希望にも柔軟に対応していきたい。

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
	（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個別に本人希望の理美容店に、お連れしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの得意なこと、したいことを中心に、食事の準備から片づけまで、一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お好きなものを食べてもらうようにしているが、食事内容を分析して、栄養が偏らないよう努めている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムを把握しており、失敗やおむつの使用は少ない。	○	気持ちよく排泄していただくために、十分な水分・乳酸菌飲料の摂取を心がけている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂・しまい湯など、本人の希望をきいて、順番を決めている。また、好きな湯の温度に調整している。	○	安全のため、湯の温度の確認に湯温計を使用している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの利用者が、自由に休息し、昼寝をとることができる環境である。		
	（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	そのひとごとの楽しみ生きがいをみつけて、自由に楽しめる支援をしている。生活力に応じた役割をもってもらい、張りのある生活を送ってもらっている。		

番号	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者と家族には、事前にリスクを説明の上、金銭をもっていただいている。	○	外出時等に、本人が支払う場面もある。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の商店街の、お気に入りの店にお連れするように、努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	踊りの発表会鑑賞や、畑に芋ほりに出かけた。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを、家族に書いていただいている。職員も補足し、ご様子を伝えている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るく気持ちよく、出迎えるように職員がこころがけている。利用者が楽しく面会できるような配慮をしている。		
	（4）安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員で検討し、身体拘束をしないケアを実践している。	○	身体拘束ではないのか、日々のケアをふり返る努力をして、身体拘束につながらないようにしている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が常に、利用者が今どこで何をしているか、把握している。外にでたい願望のある場合は、外出をして、気持ちをすっきりしてもらう、話相手になる、気分転換する、などの支援をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が常に、利用者のご様子を見守り、こまめに職員間で報告をしている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物もできるだけ本人管理にし、使用状況を確認している。	○	湿布・うがい薬・はさみ等を本人管理にしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事業所として、自衛消防隊に入隊した。	○	一泊の研修に職員が参加し、災害防止の知識を学んだ。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	常勤の看護師が、日頃からすべての職員に訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の交番・消防署・レストラン・住民にグループホームの概要を説明し理解してもらって協力を約束していただいている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	本人の疾患によっておこりうる症状、身体機能上の問題から誤嚥や転倒等のおそれがあることなど、説明している。		
	（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師を中心に、日頃からおひとりおひとりの体調を注意深く観察し、職員全員が把握し、必要時には医師に報告し指示をあおぎ対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品情報などから、服薬の内容を把握している。	○	服薬に関しては、チェックリストを作成し、内服までに複数回、複数人で確認することにより、誤薬を防止している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘について理解し、水分補給や体操、繊維質の食事の摂取を心がけ、定期的な排泄のコントロールが出来ている。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の能力に応じた形で、口腔ケアをしていただいている。必要な方には、スポンジブラシやその方に応じた歯ブラシを選定している。	○	歯科医や歯科衛生士の訪問診療を、取り入れており、今後も継続していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握し不足分は、代用食品を利用している。	○	きざみ・ソフト食など、利用者の能力に応じた食事形態で調理している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員会議で予防マニュアルを基にして、予防法の再確認をし勉強している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板・ふきんの消毒、1週間に最低1度は冷蔵庫の清掃をしている。食材は出来るだけその日に使用する。	○	食品サンプルを保存しておく取り組みを実践している。調理用ディスポーザブルの手袋も使用している。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1） 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしている。花を飾り、安らげる雰囲気をつくっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインドで光の調整を行い、テレビや音楽などBGMの音量に気を配っている。	○	見ていないテレビは消して、音楽を流すよう心がけている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いすやソファー等の配置を工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌や信仰している宗教のご神体・写真・絵・カレンダー等、自分の馴染みのものを配置している。		

番号	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に気を配っている。空気清浄機を利用している。臭気を消すことができる消毒薬を導入している。		
	（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターや階段を自由に使用できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所を明記している。なるべく自宅で使用していた家具等を持ってきていただき、自分の部屋であると認識していただけるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターや植木鉢を置いて、花を育てている。		

番号	項　　目	取り組みの成果 （該当する箇所に○印をつける）
v　サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《　 》②利用者の2／3くらいの 《　 》③利用者の1／3くらいの 《　 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《　 》②数日に1回程度ある 《　 》③たまにある 《　 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《　 》②利用者の2／3くらいが 《　 》③利用者の1／3くらいが 《　 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《　 》②利用者の2／3くらいが 《　 》③利用者の1／3くらいが 《　 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《　 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2／3くらいが 《　 》③利用者の1／3くらいが 《　 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《　 》②利用者の2／3くらいが 《　 》③利用者の1／3くらいが 《　 》④ほとんどいない

番号	項　　　目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）
96	○利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《　 》②利用者の2／3くらいが 《　 》③利用者の1／3くらいが 《　 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《　 》②家族の2／3くらいと 《　 》③家族の1／3くらいと 《　 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《　 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《　 》③たまに 《　 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 ○ 》①大いに増えている 《　 》②少しずつ増えている 《　 》③あまり増えていない 《　 》④全くいない
98	○職員は、活き活きと働けている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《　 》②職員の2／3くらいが 《　 》③職員の1／3くらいが 《　 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《　 》②利用者の2／3くらいが 《　 》③利用者の1／3くらいが 《　 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《　 》②家族等の2／3くらいが 《　 》③家族等の1／3くらいが 《　 》④ほとんどできていない